

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102491		
法人名	社会福祉法人みどり福祉会		
事業所名	グループホーム北山		
所在地	岐阜市北山1-15-25		
自己評価作成日	令和5年8月21日	評価結果市町村受理日	令和5年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2170102491-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で自分らしく普通に暮らしたい、利用者様とご家族様の当たり前の思いを大切にしています。その方の今できることを活かし、維持できるように努めます。管理者の交代で、管理者は、看護師であることから、利用者の健康管理を多方面で支援できればと思っています。食事の面では、栄養評価を行い、その方にあった形態や摂取量を考えます。今できる機能を活かした生活リハビリを考えていきます。利用者が重度化した場合や、終末期にも対応できるよう進めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員一人ひとりが仕事にやりがいを持って取り組めるよう、日々のケアの中で、嬉しかったことや上手くできたこと(プラス面)、落ち込んだり出来なかったこと(マイナス面)を文字で表現する取り組みを行っている。職員が感じるプラス面を花びら、マイナス面を木の根っこにしまうなど、より沢山の花を咲かせられる「働きがいの木」として職員の思いを可視化し、職場及び就業環境の整備に繋げている。看護師資格を有する管理者となり、職員と共に一丸となってケアに取り組み、利用者の健康管理の強化や生活リハビリの充実、終末期の体制作りなど、より良い利用者サービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、その人らしい生活や、安心して住み続けられる町づくりを職員と共有し、実践している。これからも追求していく。	法人理念・グループホーム理念をミーティング・会議等で確認し、日常のケアが理念に沿って実践できているかを振り返っている。利用者が住み慣れた地域で、安心・安全に日々過ごすことのできる支援について話し合い、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と散歩に行くと、近隣住民の方とあいさつ程度のお話はあるが、それ以上のことはない。事業所として、地域の方を招いてイベントを行っていたが、コロナ禍で現在行っていない。今後は、相談会や交流会が以前のようにきでたらいいと思う。	コロナ禍で、地域との付き合いも以前のように出来ないが、夏祭りに招待されて参加し、ボランティアは受け入れている。事業所に地域交流ホールがあり、今後は地域の協力を得ながら、様々な行事を展開する予定である。近隣の保育所園児との交流もある。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催されるようになった。地域とのおつきあいの重要性がわかった。いろいろなご意見を参考にしている。コロナ禍ではあるが、夏祭りのお誘いを受け、駐車場のご配慮で参加できた。大変喜ばれた。	運営推進会議は隔月に行い、自治会、民生委員、行政、家族、利用者代表等が参加して開催している。ホームの状況、ヒヤリハット、コロナ禍の取り組みを報告し意見交換を行っている。今後は、利用者の笑顔が多く見られるような行事を展開する予定である。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者様に日頃から、わからないことは、問い合わせをし、丁寧な対応をしていただいた。先日は、運営推進会議にも参加いただき、施設の現状をお話した。連携を取っていききたい。	行政担当者が運営推進会議に参加し、介護保険制度の動向や、コロナ禍での対応についての助言・指導を得ている。今回、管理者の交代があり、担当者から、わからない事や困難事例は相談するよう声掛けもあった。事業所の実情などを伝え、意見交換を行っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は施設の身体拘束をしないケアを理解し、ケアを行っている。身体拘束防止についても学習している。しかし、玄関の施錠は行っている。玄関の施錠も検討しなければならない。	身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会を同日に開催している。身体拘束ゼロを実践し、拘束の弊害についても、学習会を開いて職員全員で共有している。玄関の施錠は身体拘束に繋がるものではなく、適切に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待防止研修を受け、常に不適切なケアがないよう、職員同士で確認し、徹底している。	管理者と職員は研修を重ね、不適切なケアはないか、意見交換を行っている。入浴支援やトイレ介助の際に、利用者の身体など細かく観察し、事業所全体で虐待を見逃さない体制を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在施設に甥や高齢の弟様が、利用者の面倒を見てみえる方がおられる為、このような制度の仕組みなど職員やご家族にも知らせる必要がある。まだ、そのような声は聞かれてはいないが、管理者も研修会とかでは、聞いたが活用と支援したい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が交代してから、落ち着いており、7か月ほど新規契約がない。環境が変化することにご家族や本人も不安がある中の契約となるので、十分な説明を行い、疑問を尋ねて、理解・納得を図っていききたい。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会の方に投書箱の確認をお願いしている。ご家族からの貴重な意見は職員で共有し、改善出来る事は行っていく。	家族の訪問は多い。訪問時に時間をかけて利用者の状態を説明し、意見交換を行っている。利用者と家族の希望や要望を職員間で検討し、改善につなげている。通信は発行していないが、家族の希望があれば行事などの報告している。	以前は便りを発行していたが、今は止まっている。利用者の日常生活の様子を文書や写真等で伝えることで、家族との信頼関係の構築にも繋がると思われる。家族向け「便り」の復活に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が交代したことを機会とし、職員が何でも話せて、反映できる環境作りに努めている。職員会議では、いろいろな意見があり、業務改善に取り組んでいる。	日頃から管理者も現場に入り、職員の意見を聞いている。職員会議では、職員が自由に話せる雰囲気作りに努め、出された意見を運営に反映させている。また、職員の提案も積極的に取り入れ、利用者の笑顔を引き出せるようなレクリエーション活動を展開している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者と管理者は、職員会議や面接(年1回)を通して個々の意見ややりがい働きやすさを追求するように努めている。今年度は、「働きがいの木」作成中である。勤務時間も調整中である。	職員が仕事と家庭を両立できるよう、職場環境や就業条件等を整えている。職員一人ひとりがモチベーションを持って仕事に取り組めるよう目標を立てている。達成時には玄関に掲示した「働きがいの木」に明記するなど、職員の努力を見える化している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、法人内外の研修を計画的に受講できるように努めている。特に認知症の研修などは、フィードバック研修も行っている。利用者一人ひとり、統一したケアができるように、申し送りを含めて取り組んでいる。	全職員が平等に研修を受けられるよう、機会の確保に努めている。また、職員個々が望む研修も受講できるよう配慮し、ステップアップに繋げている。専門職としての研修受講の機会を多く設け、職員全体の支援内容が統一できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で、なかなか法人職員の交流が出来ていない。今後もオンラインの交流となっていくのかもしれないが、民医連の介護交流集会や研修会など、積極的に参加を促して行きたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりと向き合い、関係づくりに努めている。何気ない日常の会話を楽しんでいる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いを巡らせ、最善策を考えようとしている。中々思いを伝えられない利用者も多い。ご家族から、情報を得る。	利用者の思いや意向は、個別ケアの場やテレビ・新聞・会話など、様々な媒体を通して把握し、希望に沿った支援を実践している。申し送りや会議で把握した内容を共有し、利用者から「ここが一番」という声が聞ける支援に取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画書作成月の前の月がアセスメント月となり、職員会議等で話し合っている。毎月、モニタリングを行い、ケアプランに反映させている。誰もが、統一したケアができるように、取り組んでいる。	家族の訪問時に、計画についての意見を聞いている。家族の意見を踏まえて職員と関係者が話し合いながら介護計画を作成し、家族に説明、意見交換し、現状に即した計画としている。今後は家族同席の上、計画作成会議の開催を検討している。	地域の感染拡大状況が落ち着いた際には、家族の参加を得て、介護計画作成会議を開催する予定としている。利用者の日ごりの様子や職員との関わり方などを実際に見てもらい、次への計画を話し合える場となることに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、ケアプランに沿った記録となるように、ただの経過記録にならないように気を付けている。利用者の発した言葉や行動など書き留めてケアプランに活かしている。	利用者の個別記録は、タブレットで入力している。記録した日常の様子、ケアの結果、成功、失敗例などを職員間で共有している。改善できる課題を明確にし、意見交換しながら改善に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所それぞれ、考え方や理念の違いで、サービスが違っていると聞いている。利用者個々のニーズに対応出来るように、当事者間が話し合い、柔軟な支援を考えていく取り組みをしていきたい。	利用者が孤独にならないよう、医師の診断時や専門医への受診などを家族対応とすることで、本人と家族が会えるよう工夫している。建物内に地域交流ホールがあり、地域の行事には利用者も積極的に参加できるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者は、この地域に長年住まわれており、ここを選んでいただいたと聞いているので、見慣れた景色の中においていただくのが良いと考える。豊かな暮らしにつなげたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族は、ここの地域を重視しており、かかりつけ医からの紹介で入所された方が、そのまま主治医となるケースが多く、安心して適切な医療が受けられると思われる。専門医の受診は、ご家族が同行している。	契約時に、かかりつけ医を選択することが出来る事を利用者・家族に説明している。選択した主治医に月2回の往診を受けている。歯科についても協力医による往診が可能である。管理者は看護師資格を有しており、利用者の健康状態も把握している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣に医療機関がある為、安心して治療が受けられる環境にある。入退院に関しても連携が取れる体制がある環境である。	入退院の対応は、管理者が医療機関と「連携パス」で情報を共有し、相互の協力関係作りに努めている。退院時には、利用者の状態を前もって把握し、職員会議で検討しながら、安全な体制で受け入れている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、本人・ご家族に重度化した場合の指針・同意書を頂き、対応している。高齢の方もおられるので、折に触れ、希望を再度確認している。終末期の過ごし方、ご家族に充分説明を行い、対応していく。	管理者の交代があり、これを機に看取りを検討中である。現在は、看取り指針について説明し、事業所で行えるケアについて、利用者・家族の同意を得ている。状態の変化時は関係者で話し合い、段階を追って再確認しながら対応している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員の指導で年1回、救急蘇生の方法を学習している。事故発生時の対処方法などもそれぞれ、くんれんを重ね、実践していきたい。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアハウスとの合同で消防訓練は、年2回開催している。1回は地震と火災訓練、1回は夜間火災発生を想定で実施した。水害についても今年度は、行う予定である。	火災訓練は年2回夜間想定を含めて実施し、詳細な取り組みを行い、運営推進会議で報告している。備蓄品も定期的に点検し適切な管理に努めている。	今年度、計画している水害訓練には地域住民に呼びかけ、近隣との協力関係の構築の一步になる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを保ち、自尊心を傷つけない言葉かけに努めている。職員は、情報を共有し、良かった対応を話し、心掛けている。	利用者一人ひとりの人権尊重、プライバシー保護、自由が抑制されることのないよう、常に利用者本位の支援に努めている。接遇・権利擁護の研修には代表が参加し、職員研修時に特に重点を置いて対応方法等を周知させている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いをなかなか表出できない利用者が多い。本人の思いや希望を時には、時間をかけてお聞きできるように努めている。また、自己決定できる工夫をしていきたい。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のその人らしい暮らしをどのようにしていくか？意思疎通が難しい方もおられる。その人らしい、快適さを求めていく。コーヒーがお好きな方は、1日何回となく、お出しする。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食べることがお好きで、楽しみにされている。個々の嗜好は把握できており、代替品はどうかと、日々悩んだりする。食事の準備や片付けなどは、難しいが、下準備など出来る事は行ってもらう。	朝食は事業所で準備し、昼・夕食は外部委託している。利用者の嗜好を把握し、希望に沿うよう努め、行事食も取り入れ、食べる楽しみを多く持てるよう心掛けている。対面式のキッチンで、利用者は出来ることを手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りを意識しているが、その方の必要栄養量は、維持出来ているか、検討しているところです。嚥下の力が、維持できるようにしていく。水分摂取量は、個々にばらつきはあるが、努めて飲用していただいている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る事は、やってもらう、また、口腔衛生指導を受けられている方もおられるので、歯科衛生士と連携をとって、行っている。また、参考になっている。	口腔ケアについては、職員が歯科衛生士の指導を受けている。利用者の中には一緒に口腔指導を受けている人もある。毎食後の口腔ケアは欠かさず行っている。各居室に洗面台があり、出来る人は見守りや声掛けし、介助の必要な人は職員がサポートしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを知り、自立に向けて支援している。ケアプランに取り入れる。パターンがわかれば、トイレで出来るが、失敗もある。オムツの使用が減った方もいる。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は概ね決まっているが、職員の都合で入れる方は少ない。今日は、どうされるかお聞きして入っていただく。入り方や入浴時間も個々に希望をお聞きして支援をしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで就寝時間や臥床時間が違う。早く寝て、早く起きられる。時間を伝えて再入眠も促す。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、内服薬が違い、服用回数や服用の仕方も違い、全て把握しなければならない。誤薬に注意し、確実に服用させる。作用・副作用についても知っておく。	服薬の目的や副作用などは、定期的に全員で確認し、服薬時には、職員が最後まで見届ける事を徹底させている。かかりつけ医が違っても、同一の薬局から薬が届き、薬剤師から薬効の説明を受け適切に管理している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割が喜びとなり、張り合いのある生活となる。いろいろな役割を持つことは大切である。生活の中で、楽しみが持てるように支援していきたい。	日頃の暮らしの中で、役割を果たせる事が利用者の生きがいや喜びにつながることを職員は理解している。今までの生活歴を参考に、その人ができることを見つけ支援している。利用者へ「ありがとう、助かります」と感謝と労いの声をかけている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は、まだ行えていないが、少しずつ、地域の行事や交流が出来るようになった。特に子供たちとの触れ合いが、笑顔になられるので取り入れたいと思う。	コロナ禍ではあるが、感染対策をした上で、喫茶店に出掛けたり、ドライブ、花見等、徐々に外出の機会を作っている。猛暑や、異常気象による突然の雨も多く、散歩は控えて室内の地域交流ホールを歩くなど、下肢筋力低下を予防している。	

岐阜県 グループホーム北山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお金の管理を行っている。外出時には、お金を所持したり、使う喜びにつなげたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っていらしゃる方がいる。家族に連絡したいと言われる方は、ホームからかけさせて頂いている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔を保ち、快適に過ごせるように配慮している。利用者にとって不快と感じる音や騒音などには注意していく。生活館や季節感も感じられるよう、居心地がよいように整備していく。	共用の空間は広く、清潔で明るい。広い廊下は福祉用具が必要な利用者も安全安心に移動ができる。季節感を取り入れた利用者の作品を掲示し、観葉植物を置いている。テレビの前のソファや畳コーナーなど、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームにおける居場所があると、落ち着く方もあられるだろうと思う。たまには、壁向き側を向いたり、窓からの景色や小鳥が来るのを楽しみにされている方もみえる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた私物、タンスや椅子、ご家族の写真など、なじみのある物を持ってきていただき、使用している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が1階であり、庭に面しているので、いいこともあるが、防犯上はあまりよくない。窓は10cmほどしか開けられない。居室は快適な生活が送れるように配置されている。個々の自立した生活となるよう、工夫している。		